

こんにちは！ 室長の工藤です。

建設中の市役所庁舎もいよいよその姿を頭にしましたね。今回は、市役所庁舎の変遷「こぼれ話」です。

昭和20年(1945)7月28日の空襲で青森市役所庁舎は類焼したため、市役所は焼失を免れた青森市公会堂に移ります。そして、9月25日に青森に上陸した進駐軍がこの公会堂を司令部として使用することになったため、再び市役所は移ることになりました。



柿崎守忠市長

この間の経緯について、たとえば平成元年(1989)に青森市が発行した『青森市の歴史』には「(進駐軍の)上陸開始と同時に(中略)市役所に対して一時間以内に立ち退くよう命令が下され」という叙述がなされています。この叙述が拠った史料は明示されていないので事実関係を確認することができません。ただ、敗戦当時の青森市長柿崎守忠が、昭和47年に青森市が発行した『青森空襲の記録』に「仮庁舎の時代」と題する文章を寄せており、その手がかりを与えてくれます。

すなわち、敗戦、そしてアメリカ軍が青森に進駐することとなった「その時、進駐軍は、公会堂を使用するから即時退去せよ」といってきました。」といい、これを進駐が始まった9月25日の出来事と解釈すると、『青森市の歴史』の叙述との整合性を見出せます。

ただ、柿崎はこれに続けて、市役所を移すにあたって「それで二、三の候補があげられましたが、(中略)蓮華寺の縁の下納骨堂を借りて、事務万般をとることにしました。」とも記しています。進駐が始まってから、しかも「1時間以内の退去」を求められたとする状況で、複数ある候補を検討する余裕があったのだろうか…疑問です。

一方、当時の新聞記事に目をやると、アメリカ軍の上陸は午前9時に始まり、午前10時から司令部が置かれた公会堂でアメリカ軍のミューラー少将と金井青森県知事が会談しています。公会堂はすでに司令部になることが決まっていたから、上陸開始からわずか1時間後にここで知事と会談ができたのでしょう。

さらに、アメリカ軍は進駐前に青森市内の調査を行っていて、公会堂も9月16日に念入りに調査をされています。ですから、進駐開始以前に公会堂が接収されることは決まっていた、柿崎のいう「即時退去」は9月16日以降、進駐前日の24日までのどこかの時点で命じられたものとみられるのです。もちろん、柿崎の文章とも齟齬は生じないと考えます。

しかも、これを裏付ける当時の記録も見つかり、それには公会堂を市役所として使用したのは9月24日までで、翌25日からは「蓮華寺本堂床下」を使用したとあるのです。9月25日の進駐当日、市役所はすでに公会堂を離れていたのです。